

「サロン運営者に対する介護予防の居場所づくりへの調査アンケート」の報告書を作成しました

－はじめに－

令和元年度に、坂井市社会福祉協議会では、改めて、地域住民が目指す居場所、必要な支援を知り、今後のサロン活動の推進に活かしていくことを目的に「サロン運営者に対する介護予防の居場所づくりへの調査アンケート」を実施しました。

このたび、結果報告書が完成しましたので、一部報告します。

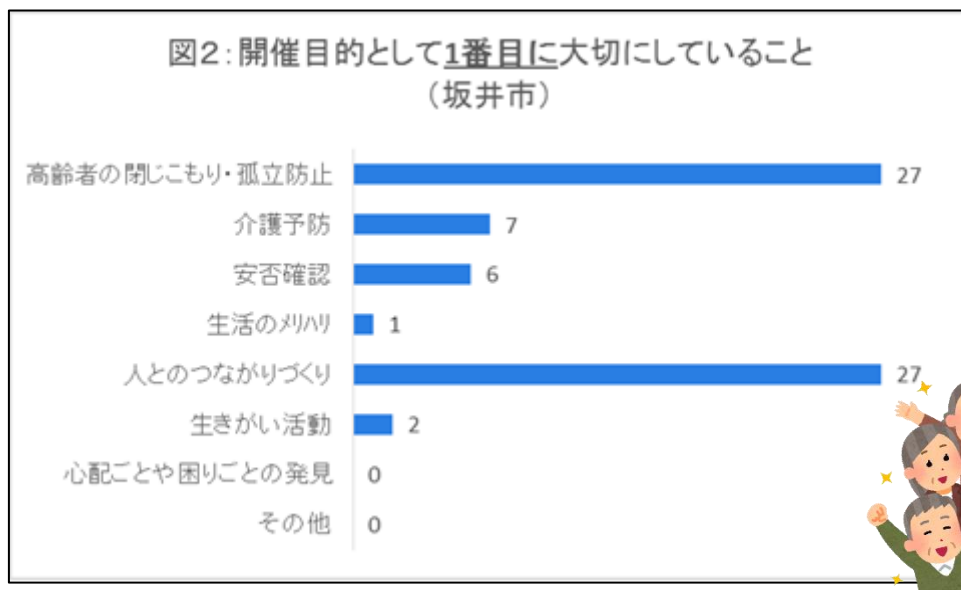
最後に調査にご協力いただきましたサロン運営者のみなさまに心から感謝を申し上げます。

～アンケート結果の内容～

- 調査時期：令和2年3月6日～3月19日
- 調査対象：
令和2年3月時点で、坂井市社会福祉協議会の実施する地域介護予防活動（サロン）に登録する高齢者サロンの代表者へ依頼
(内訳) 三国町：19名 丸岡町：23名 春江町：44名 坂井町：24名
- 回答率：65% (110件中72件回答)
- 調査方法 郵送配布・郵送回収 (令和2年3月6日発送)

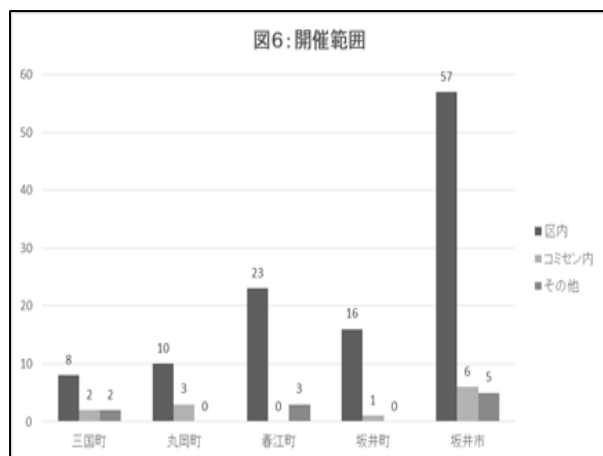
ふれあいサロンの開催目的として大切にしていることは、

「高齢者の閉じこもり・孤立防止」と「人とのつながりづくり」



住民がサロン運営を行う上で大切にしていることは、「高齢者の閉じこもり・孤立防止」「人とのつながりづくり」など、**人が集まり・つながる機会をつくり、地域住民が孤立しない環境づくりの機能**を大切にしていることが明らかになりました。

開催範囲は「区内」実施が多かった

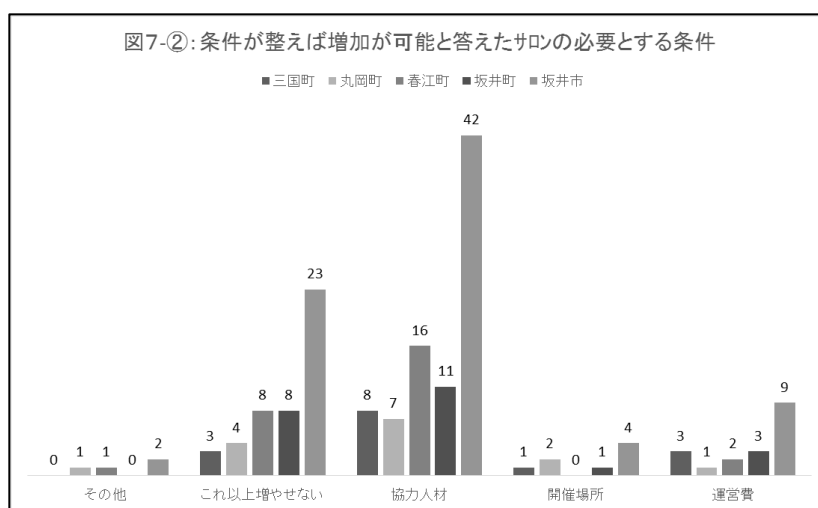


開催範囲においては、「区内」で開催しているサロンが多く、高齢者が自分の足で来ることができる場所として、より身近な「区内」での開催が望ましいと考えている運営者が多いことが予想されます。

また、サロン運営者が開催目的として大切にしている「高齢者の閉じこもり・孤立防止」「人とのつながりづくり」においても、**まずは区の単位での住民のつながりを重要**としていることが考えられます。

開催回数を増やすためには「協力人材」が必要

「開催頻度の増加の意向及び必要な支援」の質問項目及び「自由記載」等の回答では、「協力人材がいれば回数の増加が可能」との回答をしているサロンも多く、まずは**サロン運営の仲間づくりや協力人材の育成等の支援を必要**としていることが明らかになりました。



□自由記載では、住民の求める居場所としては、**誰かがいて、毎日開催しており、気軽に立ち寄れる**という居場所や、対象を子どもから高齢者まで多世代が集まれる**地域共生できる居場所**を作っていきたいとの思いがあることが明らかになりました。

また、高齢者に対する介護予防のメニューをサロン内で実施する場合には、地域福祉と介護に精通したスタッフのバックアップや体操やレクリエーションを指導してくれる協力人材など、住民だけの運営ではなく、専門職の協力を必要としている声も多く寄せられました。

今回お聞きしたみなさまの声をもとに、坂井市社会福祉協議会では、今後も住民が大切にする「地域の居場所づくり」を応援するために、協力人材の育成支援や地域でのサロン活動における理解啓発の活動を進めていきます。

本調査アンケートの結果報告書の全文は、坂井市社協 HP (<http://www.sakaicityshakyo.jp/>) に掲載しています。

